

令和6年度 岩谷堂高等学校
第1回学校運営協議会

1 期日 令和6年6月11日(火)

2 出席者

学校運営協議会 若生和江、小山 静、鈴木 雅孝、佐賀 俊憲、渡辺 雅孝
校長、副校長、事務長、総務課長、教務課長、生徒指導課長、進路指導課長、総務担当者

3 次第

(1) 開会のことば

(2) 学校長あいさつ

(3) 参加者自己紹介

(4) 協議

ア 学校経営計画について 【承認】

イ その他 【承認】

(5) 説明

ア 学校概要について(教務課 生徒指導課 進路指導課)

イ 令和6年度岩谷堂高校教職員働き方改革アクションプランについて

ウ 「note」による発信について

(6) その他

(7) 閉会のことば

4 質疑・意見交換・提言

- ・岩手モデルについて具体的にどのような取り組みを行っている(行う予定)か。
⇒現在職員会議で課ごとにコンプライアンス発表を行っている。また研修に行った職員が会議で内容を発表し周知徹底するようにしている。また、県からの通達など何かあればその都度職員に伝えている。
- ・江刺甚句まつり、マラソン大会などでたくさんの岩高生にボランティアで活躍してもらいたい。近年鹿踊部の部員減少を耳にしていたが、現在は部員も増え心強い。地域のことに興味を持ってくれている生徒が増えていると感じる、引き続きその部分の指導をお願いしたい。
- ・ボランティアを希望する生徒が増えているが、ノルマなど指導があるのか?今後の参考にしたいので仕組みを教えてほしい。
⇒学校では基本的にノルマなどは設けていない。生徒は自ら積極的に手を挙げている子が多い。
- ・地区の生徒の数が減ってきている状況である。水沢からのバスはほぼ満員、道路も混んでいる。バスの本数で不便な状況や苦情、課題提起などはあるのか?
⇒昨年、朝の登校時間を早めるとよいのではという意見もでたが、バスの設定があるので変えていない。今は何も問題はない。学校としては今のバス路線を維持してほしいと願っている。
- ・岩高はバス通学率が高いのか?
⇒それほどではないと感じる。八日町で降りるバスを利用する生徒も多い。市民からの声も重要。バス会社にも現状維持を伝えたい。

- ・生徒たちの登校時間は実際間に合っているか？ギリギリの生徒を見かける。
- ⇒遅刻が増えていることはない。3年前までは朝学習（進取の時間）を設けていたが、今は「始まる10分前には来るように」という指導。現状では8時40分に席に着いていればよしとしている。
- ・総合学科について非常に難しい感じがしていたが、「社会に求められている力を身につける」学校と捉えられ、時代に合っていると感じる。
- 今年新生が83名でこれからクラスが減るのか不安がある。高校自体は魅力があっても地域や保護者が魅力をわかっていないのでは、と感じる。中高これからお互い連携をとっていききたい。地域の魅力も伝えたい。行事も、もっと中高連携をとってつながりを持って深くできないか、一緒に地域のために考えていけるとよいと感じる。
- ⇒人数減は厳しい状況。3クラスを下回ると総合学科の運営自体を考え直さねばならないので、なんとかキープしたい。奥州地区の子供自体が少なくなっている現状もあるが、中学校との連携を取りながら考えていきたい。
- ・部活動はこれからもっと加入率は下がるのではないかと。中学でも郊外活動部・未加入者が増えている。中学でも入るように推進はするが、文化部が増え（3割）、球技系が特に部員数が減っている。対策を考えていきたい。
- ・学校案内がとても見やすくなり、わかりやすくなっている。
- ⇒担当教員と生徒との信頼関係でよい写真が撮れた。次年度以降もいいものにしていけたらと考えている。
- ・ボランティアが増えてきているのは、部活動だけではなく、自分が興味を持てるところに行ける時代になってきているのではないかと感じる。
- ・鹿踊体験など、小中高で連携をとれるとよいのではないかと。
- ・教職員の先生方も子育てしながら親の介護などがある世代、仕事を続けられる環境を大事にしてほしい。
- ・生徒の自己肯定感が上がっていてよいと感じる。一人一人がそのまま認められていると感じることが肝心。そのためにも先生方も心が健やかであってほしい。
- ・保護者宛アンケートなど出しそびれたことがある。今の子どもたちは親に出さない子も多い。可能であれば、ホームページやネットで解答できるようにしては回答率が上がるのではないかと？高校生になると学校とのつながりが薄れてくる。
- ・中学校でも岩手モデルの通達があり、これから取り組んでいこうと思っている。
- ・今年度から授業で使用するパソコンなどの端末は自分で買う、ということも中学職員にも周知されていなかった。来年度は早めの理解につなげたい。
- ・就職について、今年の3年生が5割希望とのこと、管内・県内就職の希望者率がコロナの時期にあがったが、最近また地元の希望率が落ちている。地元の企業は人手不足が深刻で苦勞している。売り手市場の傾向は同じ、地元企業をいかに知ってもらおうか、中高と連携をとり、企業が生徒の前で話をする機会も増やしていきたい。進路指導もよろしくお願ひしたい。
- ・現代の子達は（自分世代と）ギャップがあり、意識が違ふと感じる。挨拶など、当たり前なことを地域でやらなければならない、地域間で継続して子供を育てる意識をもたなければならない時代。地域・学校・家庭一丸となって視野を広げて活動していきたい。

・子供が社会人になってから成長により変化することも多々ある。子供たちは変わる可能性がある、と思って周りの大人が接していくことが大切。変わることを信じて、期待しながら先生、地域が一体となって子供を育ててほしい。

⇒貴重なご意見をいただいた、常に期待を持ちながら生徒と接していきたい。